北九州市立石峯中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/ishimine-j

ジャガイモ

校長通信　No.９４

平成２９年　３月１５日

「　７０周年という節目の年②　」

校長　江　口　　満

【前号からの続き】しかし、ちょうど第１回実行委員会が終わろうとしていた時だった。校長室が大きく揺れた。４月１４日２１時２６分、熊本県などを巨大地震が襲ったのだ。地震の報道で、私たちは、被害の大きさに心が震えた。翌週の４月１８日、生徒会三役が校長室を訪れ、「明日から救援物資を集めましょう！一日でも早いほうがいいです！」と熱く語ってくれ、復興支援活動「第２回つながるプロジェクト」を立ち上げた。生徒会は、ＰＴＡやサポート会、藤木小、地域の皆様のご支援のもと、生活必需品などの支援物資の受け入れを開始した。そのような中、熊本県南阿蘇村から、ぜひ物資を届けてほしいというお話しをいただき、５月の中旬に、支援物資を直接届けることにした。

また４月２２日に行われた廣末先生率いる図書委員会が開催した読書集会「ビブリア・バトル」。６人の紹介本に会場が大いに盛り上がり、今年も学校図書館が熱く面白くなった。

５月１０日、成長著しい３年生と一緒に、飛鳥、奈良、京都に向かう。出発式。私は、「昨年度の農泊は１００点満点でした。修学旅行では、何点を目指しますか？」と問うた。すると実行委員長は、「２００点満点を目指します！」と宣言。

3年1組柳瀬学級の目標「笑顔で団結～石峯のてっぺんとってやる～」
この学級、この仲間と過ごした日々を、私たちは永遠に忘れない！

新幹線を新大阪で下車しバスに乗り込み、一路、飛鳥（あすか）へ。バスガイドさんとの吉本興業並みの絶妙な掛け合い。最初の見学地、石舞台古墳（いしぶたいこふん）では、土砂降りの雨の中での集合写真、飛鳥時代から奈良時代へと、歴史の舞台に沿って見学するという３学年職員の仕掛けが始まった。

修学旅行２日目も雨。、興福寺（こうふくじ）に向け、傘を広げてその第一歩を踏み出す。待望の「阿修羅像」に出会えた胸の高まりからか、私たちは、雨がすでに上がっていることにも気づかず、東大寺や、めったに足を伸ばすこともない正倉院（しょうそういん）に向かう。昼食後、京都の伏見稲荷大社（ふしみいなりたいしゃ）から、金閣寺に向かう。バスの行程をあらかじめ予想し、ガイドさんの説明までを網羅（もうら）した「修学旅行のしおり」。その内容に気付かれたバスガイドさんが、「このしおりはすごいです！修学旅行の宝物です！」と絶賛（ぜっさん）。今回の修学旅行で、まず初めに「しおり」が２００点満点をゲットした。清水寺を散策後、ホテルに到着。万歩計を見ると、なんと２万３千を超えていた。ハードな行程の中、皆さんの集団力が一気に開花した。

３日目の天候は、一転して快晴。

南禅寺に到着。境内の朝日に映える新緑が、私たちの２日間の疲れを吹き飛ばしてくれた。「また京都に訪れる機会があれば、また南禅寺に行こう」学級ごとまとまって行動する、ステキな皆さんの姿が、より一層そう感じさせてくれたような気がする。解散式での学年主任井樋先生の総括。「歴史の順に見学していくというこだわりを追求した修学旅行。だから、きっと何かを感じてくれたはずです」と締めくくられた。私は、この時点で、「２００点満点」という言葉で縛ってしまうのが、あまりにも惜しく感じた。

「一日でも早く集まった救援物資を直接届けたい」と願っていたが、熊本地方の余震がなかなか収まらず、日程調整に時間を要した。そしていよいよ、５月２０日、２ｔトラックに救援物資搬入。１５時出発式。生徒会長は、「僕たち生徒会の思いも、トラックと一緒に運んでいってください！」と語った。生徒や職員から見送られ、皆さんの思いと救援物資を満載にして、トラックは本校を出発した。

翌２１日、トラックは、一路、熊本県南阿蘇村を目指した。先導車は、廣谷教頭先生。トラックの運転は、ＰＴＡ中野前会長、ＰＴＡ古川会長、サポート会村上会長だ。益城熊本空港ＩＣを出ると、町の風景は一変した。ブルーシートで補修した家々。石垣の崩落。緑でおおわれているはずの山並みに土砂が滑落した跡。田畑には、断層とみられる複数の亀裂が走る。道路も大きくうねっていた。そして、多くの支援車両ともすれ違った。また、仮設住宅の建設も急ピッチで進んでいた。私たちは、被災地の一日でも早い復旧・復興を、心から願った。

１２時１０分、南阿蘇村役場に到着後、久木野中学校体育館へ。体育館前には、他県のボランティアの方々など、多くの方々が出迎えてくださった。搬入した体育館の中には、全国から届けられた救援物資があった。全国の善意に、心が熱くなった。そして、南阿蘇村教育委員会の藤岡孝輔教育長が出迎えてくださった。「南阿蘇村では、今年４月、３つの中学校をやっと統合することができました。入学式を終え、本格的にスタートした矢先の地震でした。だからこそ私たちは、立ち止まる訳にはいかないのです」という教育長の言葉がよみがえる。そして７月５日の生徒総会。生徒会の新たな支援活動が、始まった。

７月７日、リオパラリンピック車いす日本代表二條実穂選手が、本校にやって来た。二條選手から発せられるオーラに、私たちは圧倒された。彼女の車いすテニスの実演。彼女の操作で、車いすが自分の体の一部となって動く。そして彼女のラケットから放たれたテニスボールが、美しい放物線を描いて相手コートに吸い込まれていく。私たちは、拍手するのも忘れて、彼女のプレーに見とれた。「パラリンピックで恩返しする。メダルを持って、再びここに来ます！」と、二條選手。彼女との出会いは、まさに七夕からの贈り物だった。【次号に続く】

3年2組武田学級最後の学活
武田先生から卒業生に送った最後のメッセージ
「人の悲しみを自分の悲しみに
人の喜びを自分の喜びに
感じることができる」そんな人になってほしい。